

令和3年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

1 学校づくりの骨子

大阪府の人材育成の重点化を踏まえた「東大阪・八尾地域をはじめ、地元産業のものづくり人財の育成」を推進する為、地元企業、更には広域な企業・業界団体等との連携を強化し、ものづくり人財の孵卵器たる学校づくりを行う。

2 生徒の育成方針

「人づくり・ものづくり・夢づくり」のスローガンのもと、ものづくりの要諦である5S（整理、整頓、清掃、清潔、躰）＋2A（挨拶、安全）の徹底を礎として、基礎学力、基本技能を高め、知・徳・体（確かな学力、豊かな心、健やかな体）を調和よく育むとともに、校外の技術者&本校教員による綿密な指導等による現場で役立つスキル（技能・技術）を身に付けたものづくりスペシャリスト、および環境変化に打ち勝つ生き抜く力を身につけた競争力を有する現場のリーダーとなり得る人財を育成する。

2 中期的目標

1 中核教育活動施策目標 (A)

- (1) 新学習指導要領の反映、指導の刷新
新学習指導要領に基づく「主体的・対話的で深い学び」への授業改善を更に展開すると共に、カリキュラムマネジメントを通じて各教科の教育内容を相互の関係で捉え、Project Based Learning 導入に結びつけ、協働・課題設定～解決型学習を進める。また、再編整備に向け職業教育のより一層の充実を図り、本校の特色化を検討・実現をめざす。
※学校教育自己診断「布施工科は自分の能力を高めてくれると思う」「布施工科高校の授業で学んだことは卒業後の仕事に役に立つと思う」の生徒肯定:80%+ (H30:72%、82%、R1:66%、75%、R2:72%、79%)
※授業アンケートの1回目と2回めの「改善率」に着目する。(5%Up以上)
- (2) 基礎学力向上への取組み強化
1学年で実施している基礎学力調査の分析結果(GTZ)に基づき、基礎学力の向上が必要な生徒に教員がマンツーマンで指導する体制を構築する。
※(GTZ)分析において、数学5%Up以上
- (3) 公開授業・校内研修の拡充
保護者及び教員を対象とした公開授業期間を年2回設定するとともに、良い点・改善点を共有し、各学科で授業力向上研修を実施する。
- (4) 生徒指導 規範意識の育成強化
5S+2Aの次なるステージとして、模範レベルの挨拶の全校展開を推進する。また、生活習慣の基本たる自己管理を重視し、遅刻指導を全校で取り組む。さらに服装基準の精緻化と指導の標準化を推進し、TPOをわきまえたモラルの高い社会人への育成を図る。
※遅刻者数 年間1,000名未満を堅持する。(遅刻者数:H30 482名 R1 523名 R2 525名)
- (5) 人権・インクルーシブ教育の推進
「障がいや理由とする差別の解消の推進に関する法律」の趣旨に鑑み、インクルーシブ教育の推進体制を構築し、教職員への啓発、知識・情報共有、サポートシステムづくりを推進する。また「常態からの差異の検知」に力点を置いた予防的措置の取組みをさらに進めるとともに、外部機関との連携強化を促進する。
- (6) 中退率減少、不登校改善取組み強化
学校生活に距離をおいてしまった生徒が学習に取り組む意欲を復活させられるよう、また学校における居場所を見だし自己肯定感を高められるよう、担任、副担任、学年主任、中退防止コーディネーター、支援教育コーディネーター、スクール・カウンセラー等が連携し、課題の早期発見と家庭との連携を深め、不登校の改善、中退率の減少を図る。
※中退率4.0%未満を目標とする。(中退率:H30 2.79% R1 3.2%、R2 4.6%)

2 拡張教育活動施策目標 (B)

- (1) 生徒会活動の推進
生徒会執行部が中心となった活動の活性化を図り、体育祭や文化祭など生徒全員が一致団結し主体的・自律的な企画～運営・展開が更に高まるよう、指導・サポートを進める。
- (2) 部活動・同好会活動の推進
部活動、同好会の加入率を向上させ、生徒の自主性と個性を伸ばし切磋琢磨する機会を通じて心身の鍛錬を図り、人間関係の大切さを知り社会人へのステップアップとする。また高い技術の向上を図りながら、ものづくりへの興味・関心を高めさせ、難易度の高い資格・検定へのチャレンジに繋げる。
※部活動・同好会活動加入率50%以上を維持することを目標とする。(部活動加入率:H30 53.6% R1 54.1%、R2 54.5%)
- (3) 交通安全教育の推進
約9割の生徒が自転車通学である現状を踏まえ、地元警察署の協力のもと交通安全教育を推進し、重大自転車事故ゼロをめざす。また、運転免許を取得した生徒には、学校への報告の遵守と共に地元教習所と連携した交通安全教育を行い、交通社会における運転者の資質と責任を果たせるようにする。

3 アウトプット対象施策目標 (C)

- (1) キャリア教育の拡充
1年生では、キャリア設計の時間において、高校生活やキャリアアップについて学び、2年生からの専科を選択する。また、ものづくりマイスター講演会を実施し、資格取得の意欲喚起を行う。
地元企業・関連企業の絶大なるご協力のもと、2年生全員に対するインターンシップ・プログラムを実施し、職業意識を高め自身のキャリアについて深く学ぶ。(1単位認定)企業経営者・幹部による講演会や、企業の現場での就業体験など、企業や就業について学ぶ。
※インターンシップ参加率 実質100%を堅持する。(H30 100% R1 100%・リカバリープログラム参加を含む、R2 未実施)
上級生の校外学習では、企業訪問を実施し、将来の働くイメージ、本校の指導内容が社会で求められることを学ぶ。
- (2) 就職希望者への進路指導の拡充
進路において就職を希望する生徒はおよそ8割であるが、まずはチャレンジ意欲を尊重しながら就職一次合格率において概ね80%をめざすと共に、就職内定率100%を堅持する。
※就職率 100%を堅持する。(就職一次合格率:H30 90.2% R1 93.2%、R2 86.1%) (就職内定率:H30 100%、R1 100%、R2 100%)
- (3) 進学希望者への進路指導の拡充
数学、物理、英語の単位数が普通科に比べて少ないため、進学希望者に対して補習を行う。特に、工科校長枠推薦の対象となる大学への学校推薦については、外部実力判定試験を受験するとともに、校内の特別補習の参加を必須とすることで自らの学力レベルを把握し大学での勉学に困らない学力を身に付けていく意欲を喚起する。またオープンキャンパスへの参加を促し進学への意識醸成を図る。(大学進学者:H30 3名 R1 5名、R2 6名)
- (4) 資格取得・検定合格の指導強化
マイスター等外部エキスパートによる生徒(及び教員)の技能向上を通じて、資格取得の拡大を図る取組みを強化する。(資格取得数 H30 498名 R1 415名、R2 507名)
なお、配管技能検定取得者数の工業高校日本一および技能五輪全国大会「配管」競技への連続出場をめざす。(H30 2級 6名・3級 29名、R1 2級 4名・3級 18名、R2 2級 1名・3級 48名)校長協会の資格レベル Aランクの合格・取得者の拡大を図る
- (5) 企業/業界団体等との連携強化
工科高校重点化の取組みとして、ものづくり企業が集積している東大阪・八尾地域等との一層の企業連携を図り、また広域な企業や業界団体から本校に来ていただく出前授業など、キャリア教育・職業教育の充実を図る。
- (6) 卒業後の進路調査と対策強化
卒業3年後の離職率を把握し、その結果を踏まえてキャリア教育・職業教育にフィードバックし、1年次より早期に外部機関と連携してキャリア教育を積極的に行い、離職率の低減を図る。なお、卒業後すぐに就職した企業に3年以上勤務の後退職して間をおかず同業他社へ転職しているケースは、キャリアプランに沿ったものとして肯定的にとらえる。

4 インプット対象施策目標 (D)

- (1) 中学校訪問等の拡大
中学校訪問や情報交換等を通して工科高校の魅力と本校の特徴を理解してもらい、本校を受験する中学生の増加を図る。
※入試倍率を1.0倍以上とする。(入試倍率:平成30年度入試 0.91倍、平成31年度入試 0.88倍、令和2年度入試 0.91倍、令和3年度入試 0.95倍)
- (2) 小中学校への出前授業等の拡大
ものづくり教育や本校の利点を知ってもらうため、中学校への出前授業や保護者説明会等への参加を積極的に推進する。さらに中長期的な視点で小学校での出前授業・各イベントへの参加を行い、ポテンシャルの拡大を図る。
- (3) 学校説明会の実施
本校で開催の学校説明会・見学会の内容充実を図る。(7月～2月に中学校の事情にあわせた戦略的拡大を図る)

5 広報・渉外活動施策目標 (E)

- (1) 情報発信/情報提供の拡充
報道機関等に対してタイムリーかつ効果的な情報が提供できるように、各部署に広報担当を設置し、組織体制を構築する。年3回の布施工科マガジンを発行し、地域・中学校に情報発信を行う。同時に、なお、ブランディング施策を推進し、工業・工科高校のイメージアップを図る。(Webサイトのアップデート:H30 20回、R1 28回、R2 32回)
生徒・保護者には、欠席連絡・緊急時も含めたメール連絡網の整備を行い、校内体制と利用の定着化を図る。
- (2) 学校ウェブサイトの拡充
中学生、保護者、府民、企業等本校に関係する全ての方々に必要かつ有用な情報提供を強化する。なお鮮度が高く生き生きとした教育活動の状況を積極的に発信する。

6 リスクマネジメント施策目標 (F)

- (1) 安全で安心な学びの場づくりの推進
生徒の安全・安心が脅かされる状況を把握し、生徒から相談しやすい仕組み、緊急度・重要度に応じた外部機関との連携等により、生命・心身の健康を守る取組みを推進する。学校保健委員会と職員安全衛生委員会を充実させ、学校三師・地域・保護者とともに「安心・安全な学校づくり」を推進する。
- (2) 働き方改革の推進
「ワークライフバランスを考慮した勤務」を標榜し、取組みを推進する。
部署会議を行い、校内組織体制・各部署での繁忙期と閑散期での取組み改善を図る。

- (3) 能動的危機管理の強化
 多重の安全管理、緊急対応等を踏まえた危機管理の徹底を図る。なお、ハインリッヒの法則に基づくヒヤリ・ハットの把握・記録・原因分析による未然防止を推進する。
 大規模震災発生時における地域連携による対応体制確立と訓練等を強化し、災害備蓄等にも努める。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 3年 12月実施分]	学校運営協議会からの意見																																																																																																																																												
<p>学校教育自己診断アンケートを令和3年12月に全校生徒、保護者、教職員に対して実施している。(以下の数値は、肯定的意見「よく・ややあてはまる」の比率を示す。)</p> <p>【学校生活】 「学校が楽しい」</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th colspan="2">肯定的評価</th> <th colspan="2">否定的評価</th> </tr> <tr> <th></th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R2</th> <th>R3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生徒</td> <td>61%</td> <td>75%</td> <td>31%</td> <td>25%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>72%</td> <td>79%</td> <td>22%</td> <td>21%</td> </tr> </tbody> </table> <p>・昨年度と比較し、肯定について生徒・保護者ともに大幅に増加し、否定も減少している。今後も、生徒の学べる環境の整備、興味ある教材・学校行事を構築し、楽しい学校づくりに向けた取組みが必要である。</p> <p>【学習指導】 「わかる授業」</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th colspan="2">肯定的評価</th> <th colspan="2">否定的評価</th> </tr> <tr> <th></th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R2</th> <th>R3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生徒</td> <td>65%</td> <td>79%</td> <td>27%</td> <td>21%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>62%</td> <td>72%</td> <td>30%</td> <td>15%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>92%</td> <td>93%</td> <td>3%</td> <td>8%</td> </tr> </tbody> </table> <p>・先生方の授業改善の取組みの効果が表れてきている。 しかし、生徒と教員の数値の差は依然大きい。生徒の数値が増加するよう、より一層の教材の精選、わかり易い授業づくりの推進が必要である。1人1台の端末配布で、格段にわかりやすくなったと考えられる。来年度も有効活用を進める。</p> <p>【生徒指導】 「適切である」</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th colspan="2">肯定的評価</th> <th colspan="2">否定的評価</th> </tr> <tr> <th></th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R2</th> <th>R3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生徒</td> <td>70%</td> <td>73%</td> <td>20%</td> <td>27%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>64%</td> <td>83%</td> <td>23%</td> <td>26%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>42%</td> <td>91%</td> <td>55%</td> <td>10%</td> </tr> </tbody> </table> <p>・肯定が約5%減少し、否定が微増。適切であるというイメージが若干出てきたようである。生徒・保護者の期待する厳しさや優しさに基づいた指導、個々の生徒に沿った丁寧な指導がより必要である。</p> <p>「納得できる」</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th colspan="2">肯定的評価</th> <th colspan="2">否定的評価</th> </tr> <tr> <th></th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R2</th> <th>R3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生徒</td> <td>62%</td> <td>78%</td> <td>30%</td> <td>22%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>67%</td> <td>83%</td> <td>28%</td> <td>35%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>74%</td> <td>81%</td> <td>21%</td> <td>19%</td> </tr> </tbody> </table> <p>・「生徒指導の納得」について、生徒、保護者とも16%増加した。 先生方の懇切丁寧な指導と保護者が求める指導方法の模索と共通理解、説明や対話を更に丁寧に行い納得した生活指導が必要がある。</p> <p>【キャリア教育】 「職業観・勤労観の育成」</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th colspan="2">肯定的評価</th> <th colspan="2">否定的評価</th> </tr> <tr> <th></th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R2</th> <th>R3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生徒</td> <td>80%</td> <td>88%</td> <td>14%</td> <td>12%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>78%</td> <td>91%</td> <td>10%</td> <td>9%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>79%</td> <td>92%</td> <td>3%</td> <td>8%</td> </tr> </tbody> </table> <p>・今年度もインターンシップは後半組は中止となったが、キャリア教育については一定の理解が得られているように思える。引き続き、工科高校重点化の取組みとして、取り組む必要がある。</p> <p>【進路指導】 「就職・進学についての情報を十分に知らせてくれる」</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th colspan="2">肯定的評価</th> <th colspan="2">否定的評価</th> </tr> <tr> <th></th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R2</th> <th>R3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生徒</td> <td>81%</td> <td>91%</td> <td>11%</td> <td>9%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>77%</td> <td>85%</td> <td>14%</td> <td>15%</td> </tr> </tbody> </table>		肯定的評価		否定的評価			R2	R3	R2	R3	生徒	61%	75%	31%	25%	保護者	72%	79%	22%	21%		肯定的評価		否定的評価			R2	R3	R2	R3	生徒	65%	79%	27%	21%	保護者	62%	72%	30%	15%	教職員	92%	93%	3%	8%		肯定的評価		否定的評価			R2	R3	R2	R3	生徒	70%	73%	20%	27%	保護者	64%	83%	23%	26%	教職員	42%	91%	55%	10%		肯定的評価		否定的評価			R2	R3	R2	R3	生徒	62%	78%	30%	22%	保護者	67%	83%	28%	35%	教職員	74%	81%	21%	19%		肯定的評価		否定的評価			R2	R3	R2	R3	生徒	80%	88%	14%	12%	保護者	78%	91%	10%	9%	教職員	79%	92%	3%	8%		肯定的評価		否定的評価			R2	R3	R2	R3	生徒	81%	91%	11%	9%	保護者	77%	85%	14%	15%	<p>◇第1回(令和3年7月27日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症拡大防止の対応は。⇒製造業は雇用が一定守られている。地域の基幹となる人材を育てている。工夫を凝らし、工科高校をアピールするチャンス。 ・3年以内の離職率40%であるが、その後はどう変遷しているのか。企業とのミスマッチ減少を。⇒1企業に固執するのではなく、転職を繰り返しキャリアアップを図ったり、企業側も転職しているから長続きしないとは受け取っていない。以前の感覚とは様変わりしている。保護者の安心を得るためにも、説明や対策を考えなければならない。 ・資格取得数は延べ人数なのか。⇒延べ人数であり、一生徒で重複している場合あり。(お金と時間がかかる。意欲の高い生徒)生徒のモチベーションで差が開いていくことがある。 ・基礎学力向上施策：学力向上PT⇒素晴らしい取り組み、先生方の負担が増になるのではないかと(対象者99名：全教員で対応)。中退防止にもつながる。 <p>◇第2回(令和3年12月3日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域製造業は、原油不足でR4は生産が若干落ち気味傾向 ・地域企業は、売上全体は落ち気味。しかし売上が落ちたからといって利益が落ちているのかと言うと必ずしもそうではない。業種・製品によって違う(二極化している)。 求人については、売上が落ちても多方面転換したりして、継続的に人材は確保したい。 ・就職試験：面接官の印象にもよるが、筆記ができて、人前で受け答えできないと困る。⇒接客できない。面接対応の指導も大切。 ・ワクチン接種済みの生徒の割合⇒50%程度となっている。 ・デュアルは、会社・職種によってやることが変わってくるのでは。安全面もある。⇒企業の中で体験させていただける範囲で、将来就く仕事というものを生徒に見せつけて欲しい。 ・デュアル参加生徒の保険は。⇒参加生徒全員がインターンシップと同様に、課外活動保険に加入している。 ・各学年の「あたりまえの徹底」は、企業にとっても大事なこと。 <p>◇第3回(令和4年2月22日開催)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わかる授業で端末配布とあるが、インターネットはどのような状況か。⇒wifi機器を貸し出し対応。教材は、PDFで課題を提示しフォームで提出。発問に対しスプレッドシートに書き込み共有するなどしています。授業をオンラインで配信し、ノートに書き写す等、様々な方法で実施した。 ・キャリア教育において、インターンシップが中止となったが、工夫した点などは。⇒全員実施で計画したが、途中で中止となった。参加した生徒が全体へ向けて発表し情報共有した。企業見学会、リモートでの説明会も実施。生徒へできる限り情報提供の場を設けている。 ・就職率93%にあがっているのは好ましい。⇒今までの企業とのつながりが生きている。進学対象者へも、将来を見据えて就職指導もしている。 ・離職率低下も好ましい結果である。技術・技能を活かした転職は(+)と捉えるべき。 ・チューター制度が生徒の満足度アップに影響していると考えられる。⇒勉強だけでなく懇談も交えながら、学校生活について話をする事で、モチベートすることができ効果があった。 ・非常に高評価になっていると思う。全体的に数値があがっている。 ・資格取得減少の理由はなぜか。合格者の公表はしているのか。⇒生徒の資格取得に対する意欲が低迷。費用・時間が嵩むのと、補習時間の確保が困難。教え合うスタイルが実施できないことも関係している。ものづくりコンテストにおいては近畿大会出場するなど効果が出ている。公表は、始業式・終業式などにおいて伝達表彰している。 <p>▽令和4年度 学校経営計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・“デュアルシステム教育”により現場スキルや豊かな教養を身につけ、グローバル社会で役割を担い、社会人として判断力・行動力のある逞しいエンジニアを育成する。 ・基礎学力向上の取組み強化：1学年での「学び直し」に個別学習教材を導入しレベルアップを図る。 ・授業力向上：公開授業週間 年2回以上の実施。オンライン学習授業の共有化、観点別学習・授業内容の改善向上を図る。 ・キャリア教育拡充：DX機器の操作方法や活用を通して実社会に役立つ知識技能の習得を図る。 ・企業/業界団体等との連携強化：デュアルシステム開始に向け、プレデュアルに取り組
	肯定的評価		否定的評価																																																																																																																																										
	R2	R3	R2	R3																																																																																																																																									
生徒	61%	75%	31%	25%																																																																																																																																									
保護者	72%	79%	22%	21%																																																																																																																																									
	肯定的評価		否定的評価																																																																																																																																										
	R2	R3	R2	R3																																																																																																																																									
生徒	65%	79%	27%	21%																																																																																																																																									
保護者	62%	72%	30%	15%																																																																																																																																									
教職員	92%	93%	3%	8%																																																																																																																																									
	肯定的評価		否定的評価																																																																																																																																										
	R2	R3	R2	R3																																																																																																																																									
生徒	70%	73%	20%	27%																																																																																																																																									
保護者	64%	83%	23%	26%																																																																																																																																									
教職員	42%	91%	55%	10%																																																																																																																																									
	肯定的評価		否定的評価																																																																																																																																										
	R2	R3	R2	R3																																																																																																																																									
生徒	62%	78%	30%	22%																																																																																																																																									
保護者	67%	83%	28%	35%																																																																																																																																									
教職員	74%	81%	21%	19%																																																																																																																																									
	肯定的評価		否定的評価																																																																																																																																										
	R2	R3	R2	R3																																																																																																																																									
生徒	80%	88%	14%	12%																																																																																																																																									
保護者	78%	91%	10%	9%																																																																																																																																									
教職員	79%	92%	3%	8%																																																																																																																																									
	肯定的評価		否定的評価																																																																																																																																										
	R2	R3	R2	R3																																																																																																																																									
生徒	81%	91%	11%	9%																																																																																																																																									
保護者	77%	85%	14%	15%																																																																																																																																									

<p>教職員 97% 94% 3% 6%</p> <p>・進路指導に関しては、生徒は 10%UP、保護者も 8%増。生徒の 9 割近い満足度が得られている。一次の合格率も 92.5%と府工科高校の中でトップクラスであった。引き続き、生徒の自己実現に応じた進路指導の充実を図る。</p> <p>【人権教育】 「学ぶ機会が多い」</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th colspan="2">肯定的評価</th> <th colspan="2">否定的評価</th> </tr> <tr> <th></th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R2</th> <th>R3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生徒</td> <td>74%</td> <td>90%</td> <td>19%</td> <td>11%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>75%</td> <td>91%</td> <td>11%</td> <td>9%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>58%</td> <td>89%</td> <td>29%</td> <td>11%</td> </tr> </tbody> </table> <p>・本年度は 1 名担当者を増員し、対応を行った。「私たちの生活の根底にあるのは、人権教育」という人権意識の醸成のため、学ぶ機会を増やし、精選された教材が必要である。</p> <p>【いじめ】 「いじめ対応」</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th colspan="2">肯定的評価</th> <th colspan="2">否定的評価</th> </tr> <tr> <th></th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R2</th> <th>R3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生徒</td> <td>55%</td> <td>85%</td> <td>16%</td> <td>15%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>53%</td> <td>78%</td> <td>16%</td> <td>22%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>85%</td> <td>96%</td> <td>16%</td> <td>4%</td> </tr> </tbody> </table> <p>・昨年度に比べて肯定が大幅に増、否定が 4%に激減。昨年度からの「いじめ防止対策委員会」、「支援教育相談人権委員会」も週 1 回いじめに関しては、見守りの情報交換が重要である。本校の指導方針について生徒や保護者、教職員に共通理解してもらおうとともに、更なる信頼と安心感を持ってもらえる学校づくりが必要である。</p>		肯定的評価		否定的評価			R2	R3	R2	R3	生徒	74%	90%	19%	11%	保護者	75%	91%	11%	9%	教職員	58%	89%	29%	11%		肯定的評価		否定的評価			R2	R3	R2	R3	生徒	55%	85%	16%	15%	保護者	53%	78%	16%	22%	教職員	85%	96%	16%	4%	<p>み協力企業の拡大を図る。</p> <p>・働き方改革の推進：組織体制の革新を図る。</p> <p>【委員よりの意見等】</p> <p>・“デュアルシステム教育”とあるが、豊かな教養、社会生活、安全などの指導はどのように行うのか。 ⇒基礎学力、対人コミュニケーションや教養を身につければ、人との関わりも深められる。リーダー的な存在や協働する人材が育成できる。</p> <p>・入試倍率は増えてはきているのか。 ⇒工科高校全体で定員が割れている状況。工科高校を第一志望とする志願者を増やせていない現状がある。開拓・継続を実施していく。</p> <p>・“デュアルシステム”をアピールしていくよう取り組みが必要。</p> <p>・遅刻してきた生徒への指導はどうしているのか。 ⇒職員室スタンプラリーによる説諭。遅刻を重ねる生徒へは、早朝登校指導や放課後に指導している。</p> <p>・“DX”とあるが、中身は広い。就職先で勉強したことが発揮できないこともある。デュアルで企業と連携しながら学習内容を精査する必要がある。 ⇒五軸のマシニングセンター、ネットワークの強化、3D モデリングマシン、3D プリンター、ロボットの制御システムなどが導入される。実習室の改善も予定している。企業と連携して取組んでいく。</p> <p>・工科改編・新カリキュラムについて、着々と進めてもらいたい。</p>
	肯定的評価		否定的評価																																																
	R2	R3	R2	R3																																															
生徒	74%	90%	19%	11%																																															
保護者	75%	91%	11%	9%																																															
教職員	58%	89%	29%	11%																																															
	肯定的評価		否定的評価																																																
	R2	R3	R2	R3																																															
生徒	55%	85%	16%	15%																																															
保護者	53%	78%	16%	22%																																															
教職員	85%	96%	16%	4%																																															

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R3年度]	自己評価
1 中核教育活動施策目標(A)	<p>(1) 新学習指導要領の反映、指導の刷新</p> <p>(2) 基礎学力向上への取組み強化</p> <p>(3) 公開授業・校内研修の拡充</p> <p>(4) 生徒指導 規範意識の育成強化</p> <p>(5) 人権・インクルーシブ教育の推進</p> <p>(6) 中退率減少、不登校改善取組み強化</p>	<p>(1) 新学習指導要領に基づく「主体的・対話的で深い学び」について工業高校時代から培われてきたスタイルを活用して、全ての授業において適用を図る。また学校教育目標(どのような生徒を育成するか等)を教科横断的・教員協働で進めていくシステム作りを行いカリキュラムマネジメント確立に繋げるよう検討する。さらに Project Based Learning の実施に向けスタンダードを確立し、そして本校独自のカスタマイズを進める。</p> <p>加えて、職業人としてのスキル、勤労観、倫理観等の醸成を全ての教科指導、学校活動を通じて行う。</p> <p>(2) 1 学年で実施している基礎学力調査の分析結果(GTZ)に基づき、基礎学力向上のための指導体制を構築する。 1 年生で義務教育段階の「学び直し」を行う。D3ゾーンの生徒に教員が放課後にマンツーマンで指導を行う。 2・3 年生では、ホームルール・反転学習で指導を行い、基礎学力向上を図る。</p> <p>(3) 教員、保護者、を対象とした公開授業期間を実施しアンケート結果から改善を図る。授業アンケートを踏まえて情報共有を行い、各科において、授業力向上のための校内職員研修を実施する。 また、Project Based Learning 導入に向けた Core Team Meeting を実施し、大阪府教育庁と協働したカリキュラムマネジメントを検討・実施する。</p> <p>(4) 「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」を有する社会人への育成へ、時間厳守、頭髪や服装を整えるなど規範意識の高揚を図ると共に、「朝のおはよう隊」を初めレベルアップした挨拶の全校展開を図る。特に時間厳守＝社会的信用と昇華させる意識啓発を継続強化する。 更に 5S+2A における清掃に着目した指導を行う。これらを推進すべく教員間の連携を強化する。</p> <p>(5) 「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」に基づき、人権教育、教育相談、担当首席、支援コーディネーター、中退防止コーデ</p>	<p>(1) 学校教育自己診断アンケート ・「布施工科は自分の能力を高めてくれると思う」「布施工科高校の授業で学んだことは卒業後の仕事に役に立つと思う」の生徒肯定回答:85%、91% 「布施工科高校の授業で学んだことは卒業後の仕事に役に立つと思う」の生徒肯定回答:75% [72%、79%]</p> <p>・「授業は良くわかる」「先生は教え方に様々な工夫をしている」の生徒肯定回答:60% [65%、71%]</p> <p>(2) 基礎学力調査の全学年実施 [全学年] ・1 学年の数学 5% up</p> <p>(3) 公開授業期間の 1 学期、2 学期各 1 回の実施 [1 回] ・授業力向上研修の年 6 回の実施 [7 回] ・公開授業研修の実施 年 2 回 [2 回] ・PBL の検討会 [18 回]</p> <p>(4) 遅刻者数 1000 未満堅持 [525 名] ・学校教育自己診断アンケート「本校の生活指導は適切である」「本校の生活指導は納得できる」生徒肯定回答:70%、65% [70%、62%] ・外部(来校者)からの評価「布施工科の生徒は挨拶が良い」「校内の掃除が行き届いている」(15 件/年間)</p> <p>(5) 悩み困っている生徒への相談～サポート及び全校生徒に対し ・スクール・カウンセラーによるカウンセリング:</p>	<p>(1) 学校教育自己診断アンケート ・「布施工科は自分の能力を高めてくれると思う」、「布施工科高校の授業で学んだことは卒業後の仕事に役に立つと思う」の生徒肯定回答:85%、91% (◎) ・「授業は良くわかる」「先生は教え方に様々な工夫をしている」の生徒肯定回答:79%、85% (◎)</p> <p>(2) 教育産業による基礎学力診断テストを 1 回実施した。その結果を基に学び直しを展開し、実情に則した学力向上に努めた。(○) ・1 年生では教育産業による演習教材を利用し、年間 15 時間「学び直し(基礎学力向上)」の指導を行った。今年度よりチューター制度で個別指導を行い、生徒の数学 GTZ を 35%向上させることができた。(◎) ・3 年生に対して例年実施している就職筆記試験等対策の朝学習を行った。(○)</p> <p>(3) 公開授業期間を年 2 回実施(1 回目:85 人、2 回目:95 人) (◎) ・授業力向上研修、年 6 回実施 クロスラーニング 2 回、(理科・歴史) オンライン授業研修会 6 回 (◎) ・職員研修の実施 3 回 (○) ・PBL・新教育課程との検討会 18 回実施 三菱電機・JMAM との共同実施 (◎)</p> <p>(4) 遅刻数は 548 名 (◎) ・学校教育自己診断アンケート 「本校の生活指導は適切である」 「本校の生活指導は納得できる」 生徒肯定回答:73%、78% (◎) ・外部(来校者)からの評価 「布施工科の生徒はいつも挨拶してくれ、気持ちが良い」「校内掃除が行き届いている」 (15 件/年間) (◎)</p> <p>(5) 学校教育自己診断アンケート 「担任の先生以外にも悩み事などを相談できる先生がいる」生徒:67%、保護者:64% ・スクール・カウンセラーによるカウンセリング 16 回 (◎) ・スクールソーシャルワーカーの来校は叶わなかったが、時間割内に毎週 1 時間の支援人権相談会議を設定し、校内の情報共有を円滑にした。迅速で的確な対応をとり、組織としての活動をより強</p>

府立布施工科高等学校

		<p>イネーターの専門チームを中核とし全校体制でインクルーシブ教育を推進する。 教員間での連携を密にし、いじめに対する迅速な対応を徹底すると共に予防に力点を置く。 学校いじめ防止基本方針、いじめ対応マニュアルを基軸に、支援を必要とする生徒に対しては、保護者、外部関連機関との連携を推進するとともに、校内での支援を推進する。 サイバー空間（インターネットの SNS 等）内でのコミュニケーション問題からいじめに至るリスクについて生徒に繰り返し指導すると共に、相談～対応プロセスを確立する。 (6) 合格発表後、新1年担任団と運営委員会メンバーで合格者の全中学校を訪問・情報共有する。 課題を抱える生徒については、必要に応じて出身中学校担任との情報交換を行う。 ・担任・学年主任・中退防止コーディネーターの連携のもと、中途退学に至らないための指導を更に充実する。 ・転退学生の実態把握、原因分析のうえ改善策の策定・推進を図る ・成績不振者や長期欠席生徒の状況・理由の把握と保護者、外部資源等との連携を強化する</p>	<p>配当分+50% ・ケアが必要な生徒に対する、支援教育会議を10回以上実施 ・生徒対象人権研修：年2回実施 ・人権重視姿勢の校内浸透 ・教職員対象人権研修：2回以上 (6) 合格者全員の中学校訪問・情報共有[39校] ・中退率：4%未満[4.6%] ・教育庁のアンケートにより、転退学生の実態を把握・分析をする。 ・成績連絡会を年2回開催する。</p>	<p>固なものとした。(◎) ・生徒対象人権研修2回実施(○) ・校内の支援体制に沿った運営を実施(◎) ・人権視聴覚教育1回実施(○) (6) 合格者説明会后、保健部・教育相談・支援委員会で15人から、健康面・学習支援状況・配慮事項について聞き取りを行った。(○) ・中退率 2.6%(1月末現在)(○) ・教育庁のアンケートにより、転退学生の実態を把握・分析をした。入学当初の意識が薄れ離籍する生徒が多いと分かった。(○) ・成績連絡会を年2回開催した。生徒の単位修得、学力向上のため、1・2学年において各学期末考査に向けて、生徒の学習面での取組み改善を図り、教科担当者間で学習効果のある指導例を共有することで、生徒の中退防止や授業改善に繋げている。(○)</p>
<p>2 拡張教育活動施策目標(B)</p>	<p>(1) 生徒会活動の推進 (2) 部活動・同好会活動の推進 (3) 交通安全教育の推進</p>	<p>(1) 生徒会執行部が中心となった体育祭、文化祭、ボランティア活動等自律的な企画～実行を進める。また、学校説明会を生徒が主体的に行い本校の良さをアピールする。 (2) 部活動顧問、生徒会他が布施工科ウェブサイトのブログにて部活動、教育活動等の生き生きとした情報を積極発信する。さらに、出前授業、学校説明会等で積極的に部活動のPRを行う。 生徒会・1年担任団・部活動顧問が中心となり、クラブ別オリエンテーションとクラブトライアルウィークを行い、部活動への参加を積極的に進めるとともに、部活動加入率を向上させ、活性化を図る。 (3) 生活指導部イニシアティブにより全教職員が地元警察との連携も含め、生徒の自転車通学に関する安全教育を推進する。 また地元教習所と連携し、やむを得ず免許を取得した生徒への交通安全教育を行い、交通社会における運転者の資質と責任を果たせるようにする。</p>	<p>(1) 生徒会のイニシアティブによる体育祭、文化祭等の企画運営。(来校者からの評価。ペットボトルキャップ回収→ポリオワクチン寄贈継続) ・学校説明会への参画回数5回以上 (2) 部活動加入率50%+[54.5%] ・実業大会での優勝部活動増 ・全国/近畿レベルへの出場 ・部活動/同好会活動の布施工科ウェブサイトでのライブ配信 (3) 交通安全教育講習会の実施 ・地元警察署による講習2回[0回] ・地元教習所による交通安全教育1回[1回] ・始/終業式等での啓発指導5回 ・教員による登下校指導25日/年[17日]</p>	<p>(1) 学校教育自己診断アンケート 「体育祭・文化祭などの学校行事は楽しい」 生徒：69% 保護者：74%(○) 「本校の生徒会活動は活発である」 生徒：70% 保護者：81%(◎) ・体育祭やペットボトルキャップ回収などを行い、生徒会執行部のイニシアティブによって企画から実行まで円滑に進めることができた(◎) ・学校説明会では生徒が主体的に見学や説明の補助を行い、本校PRを計2回行った。(○) (2) 部活動加入率は、コロナでクラブ体験できなかったため43.9%(R1:54.1% R2:54.5%)(△) ・実業大会での成績上位部活動増(◎) ラグビー部・バドミントン部・空手道部 優勝 バレーボール部 準優勝 ・全国/近畿レベルへの出場(○) 第101回ラグビー全国大会大阪予選ベスト4 写真甲子園 近畿大会出場 橋梁コンテスト入賞、音楽部 NHK コンクール参加 ・部活動/同好会活動の布施工科ウェブサイトでのライブ配信 63回(◎) (3) ・地元警察署による交通安全教育講習を、1年学年団で1回実施。他学年へはオンライン配信を実施(○) ・学期毎の始業式・終業式においても計6回、交通安全への注意喚起を行った(◎) ・免許を取得した生徒を対象に地元教習所による交通安全教育(講義)を1回実施し、運転者の責任・安全意識を高めた(○) ・教員による登下校時見守り指導等を年度内25日行った(○)</p>
<p>3 アウトプット対象施策目標(C)</p>	<p>(1) キャリア教育の拡充 (2) 就職希望者への進路指導の拡充 (3) 進学希望者への進路指導の拡充 (4) 資格取得・検定合格の指導強化 (5) 企業/業界団体等との連携強化 (6) 卒業後の進路調査と対策強化</p>	<p>(1) 2年生：就職希望者原則「インターンシップ」への参加。校内体制の確立と生徒の職業観・勤労観の育成を図る。 1年生ガイダンス教科である「キャリア設計」の授業で就職を見据えた適正な系選択ができるようサポートする。 上級生の校外学習では、企業見学・大学等を取り入れ、学校では学べない機会を設ける。 (2) 進路指導部と3年担任団の連携を密にし、就職希望者に対する指導や就職試験等の徹底を図り、就職一次合格者を概ね85%をめざし、就職内定率100%を堅持する。 2・3年生では、進路指導部・担任団を中心に、朝の学習会を実施し、自己分析・会社の選択の方法などを学習していく。(30人) (3) 年度当初に進路指導部と各教科主任が中心となり、進学希望者の補習体制を確立して指導を行う。 (4) 資格取得推進チームと3つの系のイニシアティブによる資格取得の取組みを推進し、取得・合格拡大を図る。 ・配管技能検定2級・3級の取得者数について</p>	<p>(1) インターンシップ参加率：100%[企業説明会実施] 1学年への伝達機会設定 企業・大学見学数 5つ (2) 就職一次合格率：85%[86.1%] ・最終就職内定率：100%[100%] 朝学習参加者 30人以上 (3) 補習体制の確立と報告の徹底[実施] (4) 資格取得者数の1割増[507名] ・配管技能検定2級・3級の取得者数：前年並[2級1名・3級48名合格]</p>	<p>学校教育自己診断アンケート 「学校は、就職・進学に関する情報を十分に知らせてくれる」生徒：91% 保護者85% 「将来の進路や生き方について考える機会がある」 生徒：88% 保護者：91% 「学習のわからないことについて、補習等、十分に指導を受けることができる」 生徒：83% 保護者：85%(◎) (1) インターンシップは7月実施し、新型コロナウイルス感染症拡大により8月は中止。また1年生対象に、インターンシップ報告会を設け、意識付けを行った。(一) (2) 2年生より朝学習を開始し、知識の定着と勉強の習慣を身につけた(参加者52名)。就職試験前の模擬面接指導を全教員が担当し、2回実施することで生徒の意識向上・面接スキルアップが図られた。就職一次合格率93%(◎) (3) 本年度は、週2回、進学希望者対象の学習会を実施。小論文対策も実施しながら、学習意欲を向上させた。また、進学者対象の講演会も実施。 進学率：12.8%(大学・短大：4.4%・専門学校等：8.4%)(◎)</p>

府立布施工科高等学校

		<p>は工業高校日本一をめざす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技能五輪全国大会「配管」競技に出場をめざす。 ・全工協の資格レベル Aランクの合格・取得者の拡大を図り、ジュニアマイスター取得の推進する。 <p>(5) 企業見学・インターンシップ等において、地元企業や経済団体と連携し、求人の拡大を図る。</p> <p>(6) 進路指導部が中心となり、全教員により企業訪問や開拓を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路調査として、就職者は離職調査、進学者は卒業後3年を対象とした状況調査を実施する。また結果をもとにキャリア教育に反映する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・技能五輪全国大会「配管」競技への出場[2名] ・ジュニアマイスター取得者：10名以上[15名] ・学校教育自己診断「布施工科高校は自分の能力を高めてくれると思う」肯定率70%+[72%] (5) 連携した企業・団体の件数前年並[11] (6) 企業訪問や開拓件数：前年並み[103社] ・卒業後3年後離職率：40%未満[大阪府立工業高等学校長会離職状況調査：42.5%] 	<p>(4) 資格取得者数の1割増 R3:435名(R2:507名) (○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1種電気工事、配管技能検定2級の取得者数：前年並 R3:電4名・配2名(R2:電6名・配1名) 配電盤・制御盤組み立て2級合格1名(大阪初) 施工管理 R3:電気15名、建築2名、管工事2名。 Aランク合格22名(◎) ・技能五輪全国大会「配管」競技への出場 R3:2名(R2:2名)(◎) ・ジュニアマイスター取得者(◎) R3:24名 T1 G5 S10 B8(R2:15名 T2 G5 S4 B4) ・資格取得推進チームを組織化継続(○) ・学校教育自己診断「布施工科高校は自分の能力を高めてくれると思う」肯定率生徒：85% 保護者：95%(R2 生徒：72% 保護者：85%)(◎) (5)企業連携した企業・団体数：20社。職種別説明会：13社。(◎) ・PTAものづくり講演会：コロナ禍のためオンライン開催(○) ・各種業界団体による出前授業、企業見学・現場見学会の実施：20社(◎) (6)企業訪問中止。代替措置として、電話での状況調査：102社(○) ・離職率：35.9%(◎) 離職理由上位は、一身上の都合(30.4%)、転職(15.9%)、仕事の適性(14.5%)であった。
4 イン プ ット 対 象 施 策 目 標 (D)	<p>(1) 中学校訪問等の拡大</p> <p>(2) 小中学校への出前授業等の拡大</p> <p>(3) 学校説明会、オープンスクール拡大</p>	<p>(1)本校通学可能エリアの公立中学校を訪問・電話連絡し、工業・工科高校の魅力、本校の特長等を訴求すると共に中学校状況の情報収集を行い、志願者増に繋げる。</p> <p>クラブ活動で中学校と連携を行い、本校生徒の様子・学校の様子を中学生・中学校の先生に知ってもらう。</p> <p>(2)本校通学可能エリアの中学校に対し出前授業や学校説明会を積極的に行う。</p> <p>(3)本校での学校説明会・実習・クラブ体験等を実施し、中学生・その保護者・中学校教員に工業・工科高校の魅力、卒業後進路の優位性等を訴求し、志願者増に繋げる。</p>	<p>(1) 中学校へのPR強化：90校[延べ90校]</p> <p>中学校とのクラブ連携[5回]</p> <p>(2) 出前授業及び訪問しての学校説明回数維持[4回、11回]</p> <p>(3) 本校での学校説明会・実習体験見学会、部活動体験プログラム来場者数400名[308名]</p>	<p>(1) 中学校訪問の強化(○)</p> <p>電話での情報共有(書類送付) 90校</p> <p>中学校とのクラブ連携(ラグビー・バレー) 6回</p> <p>(2) 出前授業及び訪問学校説明回数維持(◎)</p> <p>R3:出前10回、説明11回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公民連携において東大阪ラグビー場・鶴見イオン・八尾アリオでのものづくり体験実施。他の工科と連携協力で魅力ある工科高校生をPR(対象：幼小中学生) ・入院している子供たちへのものづくり支援 <p>(3) 本校での学校説明会・実習体験見学会、部活動体験プログラム来場者数生徒188名(保護者112名) コロナの影響で減少(△)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校説明会動画の制作、動画リンクを整備し、学校PRを進めた。(◎)
5 広 報 ・ 渉 外 活 動 施 策 目 標 (E)	<p>(1) 情報発信/情報提供の拡充</p> <p>(2) 学校ウェブサイトの拡充</p>	<p>(1) 進路指導部・生徒会・教務部に広報担当を設置し、横断的な広報部を設立し、中学校・報道機関・生徒保護者へ向けて情報提供を積極的に行う。</p> <p>ブランディングを推進し、生き生きとした生徒の授業・実習の様子を表現したポスターなどイメージアップ施策を積極的に行う。</p> <p>官・民他との連携により工業(工科)高等学校の魅力化の推進、さらには職業教育の重要性・キャリア発達について情報提供し、中長期的なものづくり人材の裾野拡大を図る。</p> <p>生徒・保護者への連絡体制の整備(朝の欠席遅刻連絡、コロナ対応での夜間・休日)携帯連絡網システムでの、情報発信を定着化。</p> <p>(2) 学校ウェブサイトで、中学生、保護者、府民、企業等本校に関係する全ての方々が必要かつ有用な情報提供を強化する。鮮度が高く生き生きとした教育活動の状況を積極的にブログで発信する。</p>	<p>(1) 広報体制強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年3回の広報誌発行 ・報道提供20件 ・携帯メール配信システムによる登録者数拡大 <p>(2) 学校ウェブサイトの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウェブサイトのUpdate20回[32回] ・Blog更新は学校活動日の毎日[80回] 	<p>(1) 広報体制(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総務部 PTA新聞2回発行 ・学校説明会日程チラシ(生徒図案) ・報道提供13件 ・工科再編パンフレット作製 ・工科PR(垂れ幕・椅子カバー)作製 ・ものづくりワークショップチラシ作成 ・公民連携等での情報提供(10件) ・東大阪創造館での文化祭展示会3月 ・学校説明会はQRコードでの予約制実施 ・公民連携において、大和ハウスとの連携 <p>学校教育自己診断アンケート</p> <p>「学校は教育情報について、提供の努力をしている」保護者：79% 教職員：83%</p> <p>(2) 学校WEBサイトの充実 (◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・WEBサイトのUpdate30回(内、総務部9回) ・Blog更新は学校活動日の毎日 R3:60(R2:80) ・携帯メール配信システムによる登録者数拡大 R3:生徒76% 保護者84%(R2:生徒66% 保護者83%)
6 リ ス ク マ ネ ジ メ ン ト 施 策 目 標 (F)	<p>(1)安全で安心な学び場づくりの推進</p> <p>(2)働き方改革の推進</p> <p>(3)能動的危機管理の強化</p>	<p>(1) 学校保健委員会と職員安全衛生委員会を活用し、保護者や学校三師とともに「安心・安全な学校づくり」のための意見交換を行う。</p> <p>施設・設備の安全点検を全教職員で実施し、不備・破損箇所の改善や修理を速やかに行う。</p> <p>地震・火災の発生に備えての防災訓練を実施するとともに、学校の諸活動を通して防災教育を推進する。</p> <p>(2)「ワークライフバランスを考慮した勤務」を標榜し、以下の取組みを進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業務プロセス標準化 ・システム化 ・会議の定刻終了(書面のデジタル化) ・外部リソースの活用(教育相談) <p>(3) 安全第一のもと、外部からの意見も参考に、安全対策の見直しと改善を行う。</p>	<p>(1) 学校保健委員会の実施回数：2回[2回]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員安全衛生委員会の定例実施 ・安全点検の複数回実施：3回[3回] <p>(2) 生産性向上・改善を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部署会議の実施(年2回) ・時間外80H+(1か月)の教員：月平均2未満[0.7名] ・会議の定刻終了:継続実施 ・スクールカウンセラー時 	<p>(1) 学校保健委員会の実施回数：2回実施(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員安全衛生委員会の定例実施 ・安全点検の複数回実施：3回 <p>(2)「ワークライフバランスを考慮に入れた勤務」を実践するため、毎週水曜日放課後に周知放送を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間外労働、月80h超0.7名(◎) ・職員会議の定刻終了(◎) ・スクールカウンセラー配当より50%増(○) ・ストレスチェックの健康リスク指数99(◎)(府事業場全体の健康リスク指数：100) <p>(3) 第1・回学校運営協議会にて意見聴取</p> <ul style="list-style-type: none"> ・危機対応マニュアルの見直し・徹底(○)

府立布施工科高等学校

		<ul style="list-style-type: none"> ・危機対応マニュアルの見直しと徹底を行う ・生徒居住地域のハザードマップの配布による、在校時、登下校時、在宅時の各時間帯における緊急避難の具体的な方法について意識啓発。 ・大規模震災を想定した避難、救助、被災後対応および Business Continuity Plan を策定する。 ・Jアラートを含む緊急警報発令時に身を守る術について確認する。 ・ハインリッヒの法則に基づくヒヤリ・ハットの把握・記録・原因分析による未然防止を推進する。 ・災害備蓄の充実に努める。 	<p>間:配当より 25%増</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ストレスチェックの健康リスク指数:平均をめざす。[健康リスク 94] (3) 外部からの意見聴取 ・危機対応マニュアルの配布・指導徹底 ・校内研修 1 回以上 ・大規模震災対応マニュアル、BCP の作成及び緊急時避難の具体的な方法について東大阪市と共有 ・防災訓練の実施：1 回 [1 回] ・緊急時に身を守る行動 (Jアラート発令時を含む) について配布し共有。 ・生徒・教職員分の災害備蓄としてマスクと消毒液を確保しておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和 3 年度防災計画の作成、職員会議にて周知 ・大規模震災対応マニュアル見直し(○) ・東大阪市 HP 参照に作成、TEL にて報告 ・BCP の撤去実施、緊急連絡網の作成(◎) ・防災訓練の実施：1 回実施。(○) ・緊急時に身を守る行動については、令和 3 年度防災計画に明記(○) ・生徒・教職員分の災害備蓄としてのマスクと消毒液、充分確保済み。(○)
--	--	---	---	---